

SHIBUSAWA EIICHI AWARD 2024

第23回 渋沢栄一賞

募集

応募締切

令和
6年

9月6日(金)



渋沢史料館所蔵

表彰します!“令和の渋沢栄一”

優れた経営と社会貢献を行う全国の企業経営者を御推薦ください。

—— 彩の国  埼玉県 ——

むさしのくにちあらいしまむら

武蔵国血洗島村（現在の埼玉県深谷市）出身の渋沢栄一翁は、「日本資本主義の父」と称され、500社を超える企業の設立や運営に携わるとともに、福祉や教育、国際親善など約600もの公益事業に力を尽くした我が国屈指の偉人であり、郷土埼玉の誇りです。



渋沢翁は、企業の目的が利潤の追求にあるとしても、企業経営の根底には道徳が必要であり、国や人類全体の繁栄に責任を持たなければならないとする「道徳経済合一」を提唱しました。こうした考えが現在も必要とされているからこそ、関係した多くの企業や事業が今なお存在し、我が国の

社会経済をけん引しているのだと思います。

この「渋沢栄一賞」は、渋沢翁の功績や生き方を顕彰し、その精神を受け継ぐ全国の企業経営者を表彰するものです。この賞を通じて、埼玉から全国へ企業家のあるべき姿を発信しています。

今年は渋沢翁の肖像を描いた新一万円札が発行され、渋沢翁がお金の代名詞に、そして日本経済の象徴になります。この記念すべき年に、現代の渋沢栄一と呼ぶにふさわしい方に賞が贈られますよう、全国の皆様から多くの御推薦をお待ちしております。

埼玉県知事 大野元裕

前回の受賞者（五十音順）

※役職名等は、受賞当時のものです。



こいずみ はじめ
古泉 肇 氏

亀田製菓株式会社 元代表取締役会長
<新潟県新潟市>

亀田製菓（株）は、米菓品等の製造を行う企業です。1946年創業。従業員数3,858人（連結）。同氏は、1965年の亀田製菓（株）の入社後、手工業的な方法で行われていた米菓の製造を機械化して大量生産を可能にするなど、率先して先進的な挑戦と改革に取り組み、同社を米菓業界で全国トップシェアを占める企業に成長させました。

また、2009年に（公財）食の新潟国際賞財団を設立し、世界の食に関する課題に先進的に挑戦し、成果をあげている方を表彰されています。



ほんじょう はちろう
本庄 八郎 氏

株式会社伊藤園 代表取締役会長
<東京都渋谷区>

（株）伊藤園は、茶葉、飲料の製造販売を行う企業です。1964年創業。従業員数5,205人。同氏は、1966年に（株）伊藤園の前身であるフロンティア製茶（株）を設立し、1985年には世界初の缶入り緑茶飲料「缶入り煎茶（現：お〜いお茶）」を発売するなど、日本における無糖飲料市場を開拓しました。

また、2018年から（公財）本庄国際奨学財団の理事長を務め、学生に対する奨学金の援助や、食に関する研究への助成を実施されています。



むろさき とみえ
室崎 富恵 氏

社会福祉法人いわみ福祉会 理事長
<島根県浜田市>

（社福）いわみ福祉会は、障害福祉事業や介護保険事業を行う法人です。1973年創業。従業員数495人。同氏は、次女の障害をきっかけに障害福祉運動に取り組む中、1973年、障害のある子どもたちの親が中心となって同法人を設立し、当時の障害福祉制度が入所施設中心であった中、民間下宿、民間ホーム、生活自立訓練等の地域生活移行の取組を先行的に展開しました。

障害者、支援者、地域の方々と一緒に完成させた伝統芸能「石見神楽」の舞いを国内外で上演して高く評価されるなど、障害者の自立と社会参加に貢献されています。

1 対象者

渋沢栄一の精神を受け継ぐような企業活動と社会貢献を行っている、地域に根差した企業の経営者です。
※企業規模は問いません。

具体的には、以下の①及び②に該当する企業経営者です。例としては、以下のものが挙げられます。

- ①企業倫理に則り健全かつ優れた経営を行っている
 - 社会の新しい課題へ対応する企業活動
 - 特徴のある企業活動
 - 豊かな社会を実現するための先駆的な企業活動 など
- ②社会貢献や地域貢献を行っている
 - 奨学金支給、障害者への支援
 - 環境保全活動、文化事業等への継続的支援
 - 国際貢献活動 など

2 推薦・情報提供方法

国・地方公共団体、関係団体等から推薦・情報提供をいただきます（自薦は不可）。

重要

- 概要書の提出にあたっては、必ずしも候補者の了解を得る必要はありません。
- 推薦団体等には別途、企業活動及び社会貢献活動の補足資料の提供を依頼することがあります。

推薦・情報提供にあたっては 渋沢栄一賞候補者概要書 に記入の上、「6 提出・問合せ先」まで郵便（簡易書留）、Eメール又はFAXで送付してください。
様式は埼玉県のホームページからダウンロードできます。



3 応募締切

令和6年9月6日(金)

4 選考方法

渋沢栄一賞選考委員会の審査を経て、埼玉県知事が決定します。

5 発表・表彰

令和7年1月に発表し、2月に表彰式を行う予定です。

6 提出・問合せ先

埼玉県産業労働部 産業労働政策課
渋沢栄一賞受付担当



〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1

Tel 048-830-3726 FAX 048-830-4818 E-mail : a3710-02@pref.saitama.lg.jp

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0801/sibusawaeiichishou.html>

渋沢栄一翁の 功績

[1840 ~ 1931]

渋沢栄一は、天保11(1840)年に現在の埼玉県深谷市に生まれました。

慶応3(1867)年に渡欧して欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。明治維新となり欧州から帰国した栄一は、明治政府に出仕。民部省・大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関

与ります。明治6(1873)年に大蔵省を辞した後、栄一は実業界に転身。道德経済合一説を唱え、一民間経済人として活動しました。

道德経済合一説とは、倫理と利益の両立を掲げ、利益を独占するのではなく、国全体を豊かにする為に、富は全体で共有するものとして、社会に還元することを説いたものです。

栄一はその考えを実践し、生涯に約500もの企業の設立や運営に関わり、また約600の教育機関や社会公共事業の設立・運営並びに民間外交に尽力しました。

これらの企業や社会事業は、現代の社会においてそれぞれの分野で中心的役割を担っており、栄一の想いが時代を越えて脈々と生き続けています。



渋沢史料館所蔵

▲院長を務めた養育院の病室を訪れる栄一

参考 <https://www.shibusawa.or.jp>
(公益財団法人渋沢栄一記念財団 URL)



渋沢史料館所蔵

▲栄一が設立に関わった第一国立銀行

渋沢栄一が関係した主な企業・団体

(株)IHI、アサヒビール(株)、王子製紙(株)、川崎重工業(株)、京阪電気鉄道(株)、サッポロビール(株)、清水建設(株)、JFEスチール(株)、太平洋セメント(株)、(株)ダイセル、大日本明治製糖(株)、(株)帝国ホテル、東京海上日動火災保険(株)、東京ガス(株)、東京証券取引所、東宝(株)、常磐興産(株)、(株)東洋経済新報社、東陽倉庫(株)、東洋電機製造(株)、東洋紡(株)、富岡製糸場、日本銀行、(株)日本経済新聞社、日本商工会議所、日本陶料(株)、日本郵船(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)みずほ銀行、(株)リーガルコーポレーション、(株)りそな銀行、(株)埼玉りそな銀行

渋沢栄一が関わった主な社会事業

★ 社会福祉施設

東京市養育院、中央慈善協会、恩賜財団慶福会、東京市施設職業紹介所、埼玉育児院、(社福)白十字会、(社福)埼玉県共済会、滝乃川学園、中央盲人福祉協会

★ 保健団体・医療施設

日本赤十字社、(公社)東京慈恵会、聖路加国際病院、同愛社、(公財)日本結核予防協会、(社福)恩賜財団済生会

★ 教育関係

一橋大学、東京女学館、日本女子大学、東京大学、早稲田大学、二松学舎大学

★ 国際団体・親善事業

日仏会館、日露協会、日印協会、大日本平和協会、ルーヴェン国際事業委員会、大東文化協会、在米日本人会、日米同志会、太平洋問題調査会、日本国際児童親善会

※現存する企業、団体等は原則として現在の名称で表記しました。



渋沢史料館所蔵

▲女子教育に携わり、校長も務めた日本女子大学校

主催：  埼玉県 ・  公益財団法人 渋沢栄一記念財団 ・  深谷市

後援：総務省・中小企業庁・全国知事会・(一社)日本経済団体連合会・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会・全国商店街振興組合連合会・(独法)国際協力機構・(独法)国際交流基金・(独法)中小企業基盤整備機構関東本部・(社福)全国社会福祉協議会・(一社)埼玉県商工会議所連合会・埼玉県商工会連合会・埼玉県中小企業団体中央会・(一社)埼玉県経営者協会・(一社)埼玉県経営合理化協会・埼玉経済同友会・(社福)埼玉県社会福祉協議会・日本赤十字社埼玉県支部・日本経済新聞社さいたま支局・日刊工業新聞社さいたま総局

協賛：(公財)埼玉県産業文化センター



コバトン・さいたまっち